

【練馬区立橋戸小学校・令和5年度学校評価資料～アンケート結果から～】

- ※ 表に示した「学校評価アンケート」の結果は、教員・保護者・児童それぞれについて、項目別の割合を示しています。3年続けて評価項目を変更せずアンケートを実施しており、経年変化の分析もできます。それぞれの昨年度との比較と、三者の今年度の相互比較に基づく簡単な分析を、以下に示します。

【楽しい学校 ☆】

- ・三者の肯定的評価(4 かなりそう思う・3 そう思う)は8～9割であり、今年度も高い評価を示すが、教員・保護者の最頻値(最も人数の多い評価数値)は3であり、保護者・児童の1割強が否定的評価(2 そう思わない・1 かなりそう思わない)に加え、児童の否定的評価が若干とはいえ増加傾向にあることから、昨年頂いたご意見も踏まえ、改めて「楽しい学校づくり」という原点に立ち返り、具体的な手だてを検討する必要がある。

【学力の向上 1～3】

- ・「わかる・できる授業」について、保護者・教員の平均値が下がっており、保護者の否定的評価は2割を越す。引き続き努力が必要と考える。また、基礎・基本の定着、ICTに関する項目においても、保護者の1割強が否定的評価を示しており、児童からのICTに関する評価も下降傾向にあることから、校内研究や研修の充実とともに、継続した日常的な取組が重要となる。

【豊かな人間性の育成 4～6】

- ・「自分の考えをもち、伝える力」の評価には、教員と保護者・児童の捉えに違いがある。
- ・学校図書館の運営や読書活動の取組については、昨年も話題に取り上げたが、大きく評価の傾向は変わらない。相変わらず、保護者・教員に比べて児童の評価が低い傾向が続いており、学校の取組としては、担当分掌の工夫もあり、成果を挙げているように感じているが、評価結果には反映されない現実がある。原因分析と、学校にとらわれぬ広い視野・視点で対策を検討する必要がある。
- ・安全指導に関する項目でも、教員・保護者の否定的評価は高い割合を示しており、集団登校を行わない前提での安全な登下校のあり方や安全指導の内容の検討を進める必要がある。

【健康教育の推進 7・8】

- ・体力づくりについては、8～9割が肯定的評価を示しており、好評を継続している。学校でも体力づくりの取組の継続や、新たに体育館遊びを始めるなどの手だてを講じており、引き続き思い切り身体を動かす機会の確保や運動遊びの推奨などに取り組んでいく。
- ・規則正しい生活については、教員の評価は低く、保護者・児童の評価との間にギャップがある。5類移行後の生活実態の把握と改善の促しが必要と感じる。

【特別支援教育 9】

- ・三者ともに否定的な評価の割合が2割を超えており、改善が必要な項目である。特別支援教育の必要性は改めて言うまでもないが、ステップルームの運営や支援員の確保など、都の事業指定を受けた集団不適応児対策の質的向上に向け、引き続き様々な担当者と連携し進めていく。また、教員自身が“多様性を理解し、一人一人の学びを保障すること”に向け、引き続き学ぶ機会を設ける。

【いじめ・体罰への組織的対応 10・11】

- ・教員・保護者の評価が極めて低い。複数の学年・学級で、対応が必要な状況が生じたこともあり、評価に反映されたものと考えられる。一方、児童の評価はそれ程低くはなく、実態に関する捉え方の違いを顕著に示すものと言えよう。いじめや暴言のない学校・学級づくりは必須であり、児童の実態を丁寧に捉え、相談しやすい雰囲気作りや過ごしやすい集団作りなどに力を入れていく。

【保護者・地域との連携 12・13】

- ・三者とも大きく評価の傾向は変わらない。引き続き、活動を楽しめるような工夫に取り組む。また、区による情報伝達サービス(Sigfy)の導入もあるが、デジタル発信の強化は当然のこと、紙ベースでの情報提供もまだ欠かせないと考えており、両面から発信を進める。
- ・教員の“小中一貫教育や保幼小の連携に関する評価”は、全評価項目の中で最も低い数値を示している。今年度、校区別協議会の会場校として取り組んだにもかかわらず、低い評価である要因を分析し、次の取組に向かう必要がある。

【児童の実態 14～17】

- ・4項目すべてにおいて、児童の肯定的な回答の割合が高く、自己肯定感の高さは変わらない。
全般的に、三者の評価は、教員が低く、保護者はそれよりやや高く、児童は高めの傾向を示しており、評価観や評価要素の捉え方、規準や観点の違いが顕著に現れている。
- ・中でも、挨拶や返事、ルールを守る、家庭学習を行うなどの項目では、保護者・教員と児童の回答に開きが大きい。